

「虐待死」でいいのか！ 「虐殺」ではないのか！

こんなバカな話があるか！ こんな悲惨な話が忘れ去られていくのか？

来年は小学校だな、と父方の曾祖母が夫婦で楽しそうに話していたという。その女の子が、真冬に室外に放置され、衰弱死した。この子は本当に可愛い子で、とも語る。目の前に母親がいたら、殺している、と曾祖母が言った。

この子が亡くなってから、近所の人も、見知らぬ遠方から慰霊に来た人も、「何もしてあげられなくてごめんネ」「助けてあげられなくてごめんネ」と花束や欲しかった食べ物や飲み物、おもちゃ、菓子、花束など山のように持参した。

見も知らぬ年配の男性が、何度も涙を拭いて、「いつも満腹になるまで食べていて、恥ずかしい。情けない、申し訳がない。」情けないほど何度も何度な涙を拭いていた。別の紳士は、寝る前にこの子の文章を思い出すと、眠れなくなる、と言った。その結果、近所の人だけではなく、はるばる遠方から慰霊のために多くの人々がやってきて、人形や食べ物を供え、押んで帰る。みんな同じ思いで、この女の子の霊を慰めに来ているのである。

3月に衰弱死していた結愛ちゃんの亡くなった時には、実は、よく知らなかった。虐待死はよくある話で、実の親の場合もあるが、多くはシングルマザーが、新しい男と結婚、または同棲すると男がその相手の子供を虐待するという話である。今までは、子供が小さかったためか、記録に残っていなかっただけである。大きな話題になったのは、6月に結愛ちゃんが、ひらがなの練習をしていたノートが公表されてからである。ボクは宅配の新聞をとっていないから、テレビのニュースをみるまで知らなかった。テレビのナレーションで、「もうおねがい ゆるしてください」と言ったとき、思わず涙が迸った。

読売新聞に掲載された文章は以下のものである。

もうパパとママにいわれなくても しっかりとじぶんから きょうよりか  
ももっと あしたはできるようにするから もうおねがい ゆるして ゆるして  
ください おねがいします

ほんとうにもうおなじことはしません ゆるして きのうぜんぜんできてな  
かったこと これまでまいにちやってきたことをなおす

これまでどんだけあほみたいにあそんだか あそぶってあほみたいだから や

めるから もうぜったいぜったいやらないからね ぜったいやくそくします  
あしたのあさはぜったいにやるんだとおもって いっしょうけんめいやるぞ

この文章を読んだ尾木ママが、こんな幼い子が「ぜったい」を4回もくりかえすなんて、・・・と絶句した。この文章を読めば、生きるために鬼畜と知らず、親に迎合し、「ゆるして」の部分は、魂の底から血を吐く思いで綴ったものである。これも、読売新聞によると、虐待がはげしくなった2月20日ごろまでらしく、その後は書こうにも書けなかったのだろう。それから10日ほどで亡くなってしまった。その瞬間の彼女の気持ちはいかばかりか。あるいは、ホッとしていたのかもしれない。

読売新聞の記者は、淡々と文章を写したのか、何事か思いながら書き写したのだろうか。

考えてもみよ、ひらがなの練習をするのに、なぜ朝の4時なのだ！  
子供の仕事は、食べることと外で友達と精一杯遊ぶことではないか。

それにしても、この子の頭の良さ、理解力の鋭さ、つまり賢さであるが、舌を巻かざるを得ない。「もう・・・」のひとことにあらゆる思いが詰まっていて聡明さを現わしている。・・・「言うことを聞かないから、叩いた」などとバカは釈明をするが、なんのことはない。単に、例えばパチンコで負けた腹いせに冷たい水をかけ、暴行していただけのことである。そういうことを彼女は理解していたのだ。ピンクのパジャマで一晩、屋外で過ごしたりもしている。辛かったやろに。

「虐待死」という表現に反対するのは、躰と称して折檻し、あるいはあたかも虐待しているうちに、はずみか、力加減を間違えて、亡くなった、というふうにとらえられるからである。すくなくとも、「死んでも仕方がない、あるいは、死んでもかまわない」と思っていたはずである。だから、「虐殺」と言え、という。母親がまたノー天気なおねえちゃん、亡くなった時、茫然としていた、というから、結愛ちゃんも可哀想だ。おまえも共犯じゃないか。

この子は、いったい、なんのために生まれてきたのだ。虐げられ(シタケル)、苛まれる(サダメル)ためなのか？ 自宅で、真っ暗の中、食べるものもなく、ひもじさに耐え、どうやって過ごしていたのだろうか。人間の皮を被った鬼畜と知ら

ず、母親を待ち続けたのか？ 段ボールに結愛ちゃんの仕事が 20 種も書いてあって、午後 4 時に風呂を洗う。自分で測った体重をノートに書く。……書いていて、涙が溢れてくる。同い年くらいの子をもつ女性が、「この子は何のために生まれて……」と以下の言葉が続かなかった。うちの孫と同い年である。うちの孫にこれほどの文章が書けるだろうか。

結愛ちゃんの懇願を平然と無視し、なおも虐待するとは……鬼畜の所行と言わざるを得ない。なんとも思わないのだろうか？

特筆すべきなのは、安倍総理もこの問題に言及したことである。6 月 22 日、民間の中から、虐待をなくそうとの動きがでてきたと報道された。これは、結愛ちゃんのノートという証拠が遺されてあったからでてきた動きである。あとでてくるが、都知事や都議会の連中の怠慢も大きな原因である。ノートを遺すという間抜けな夫婦が虐待の張本人である。

いくつかの問題がある。まず児童相談所だ。元小学校の教師は、即座に「児童相談所はダメだ」といった。児童相談所の職員も昼夜を問わず連絡が来る。当然で、虐待は昼夜を問わない。特に今回は香川県の児童相談所の怠慢が目にする。

なぜ、一度目に隔離したあと、親の強硬な返還要求に屈した。なぜ、返せというかといえば、児童手当が目的である。1 回目の隔離で結愛ちゃんはホッとしていただろう。そして 2 回目の隔離である。こうなれば、家に帰せば「虐待」が待っていることは、だれにでもわかるではないか。なぜ 2 回目の隔離をやめたのだ！

東京に転居したのは、香川県では 2 回も書類送検されている。ということは、1 回目の段階で、この子を隔離し、然るべき里親などを探す努力をしたか。帰宅させたら、再び虐待の嵐が待っている。以前よりひどくなっているかも知れない、という想像力に欠けている。この時点で、小生なら里親として手を挙げていたかもしれない。なぜ、相談所員は身を張って断固拒否する意志を示さなかったのか。法にしたがって、などというのは、木っ端役人の発想で、子供のことを、ほんの少しだけ考えていてくれたら、それ以上の「虐殺」にいたらなかったのではないか。(実際には、2000 年に児童虐待防止法ができています。児童相談所員にも、子供を確保できることができます。それでも、虐待はなくなります。)それがいやなら、児童相談所を辞めろ！ 子供のことを考えず、自己の保身のみ考えて、まして、隔離しようと思えばできなかつたはずがない。(余談だが、自分の出身地である香

川県のことはあまり言いたくないが、とにかく公務員を初め、金比羅山でも不愉快な思い出しかない。親切心とか優しいとか、かけらもない。書きたいことはいっぱいありますが、この稿の目的ではないから。) 彼等には、児童相談所とは、つまり、「児童について、相談する、あるいは雑談する所」なのだ。

東京に転居したのは、香川での所行が知れ渡っているからだろう。こんな幼い子を、いまからモデルにすると、食事制限などするだろうか。10年以上早い。さらに、香川から東京の児童相談所にいままでの経緯や処罰の件について、きちんとした報告、連絡があったのか？ おそらくおざなりであったに違いない。東京の児童相談所員も、会いに行ったがあわせてもらえなかった、などといわけをする。これでは、「子供の使い」以下ではないか。法律があることは知っているだろう？なぜ警察官を呼ばなかった！なぜ機転のきかない鈍重なのを訪問させた！

近所の通報者がいて、桶の水に顔をつけて、結愛ちゃんは当然、やめて！と叫んでいたというが、躰にしてはあまりにも限度を超えている。明らかに「抹殺の意図」が感じられる。泣き声は昼夜を問わない。そこで通報者の「助けてあげられなくてごめんネ」は心の底からの気持ちだろう。児童相談所に通報したというのだが、児童相談所員は、すでに述べたように、子供の使い以下でしかない。この通報者だろうか、遊んでいる結愛ちゃんに、「おうちに帰ろうか」というと、いやだ！と拒否したそうである。

何が憎くて、こんな幼気(イタケ)な、抵抗できない子を責め苛むのだろう。普通の神経では、どう考えても理解できない。

児童相談所では、事実上強制的に(つまり力づくで)被害児を連れだすことができないというなら、警察官を呼べばいいではないか。すると「虐待防止法」が適用できる。小児科医が発見することが多いのもそうである。結愛ちゃんは、病院にもつれていかせてもらえなかったというが、6月27日のニュースでは、何歳児かの検診のとき、こめかみやふとももにあざができていた。パパにやられてママもそばにいた、と結愛ちゃん自身が訴えている。この小児科医は虐待に気付かなかったのか、あるいは仕事が、話を聞くだけとわりきっていたのだろうか。いずれにせよ、医師である前に人間性の面で欠陥が露呈している。怠慢以外のなにものでもない。こいつも香川県人だ。

現に、自治体の中でたとえば高知、愛知、茨城などでは、条例ではあるが、実際に実行しているという。どれほど多くの子が救われているだろう。さらに埼玉や岐阜でも実施されているという。

心ある人や弁護士などの NPO 法人があるらしいが、都知事や都議会に二度にわたって直接依頼にいったが、「継続審議」で、いわば門前払い。都知事も、なにも仕事をしていないのだから、せめて、何人か、何十人かの被害児童を助けることができ、それこそ歴史に名を遺すことができたのに。学歴詐称をごまかすことしか考えていないのではないか。(学歴詐称もどうやら本当らしい。) 現に実行している自治体があるのだから、独裁が好きな都知事にはうってつけの仕事ではないか。

すでに述べたように、安倍総理がこのことに言及している。即座に、厚生省がでてきて、民間人のなかから澎湃として湧き上がってきた声を取り上げている。

次に、何かと言えしゃしゃりでてくる人権派弁護士が沈黙を保っているのはなぜなのか？ なにもしなくてもいい、邪魔になるから。ただ、声をあげろ！

これだけの大きな動きになったのは、結愛ちゃんのノート（ふつうの感覚では焼却するだろう）が残っていたからで、間抜けな親の所行のせいで、結愛ちゃんが「執念」で遺したのではないか。そういう意味では、結愛ちゃんの死は無駄ではなかった、と考えたい。決して犬死ではなかった。・・・そうでも考えないと、つらすぎる。

これほどの事件でも、「前例に従った裁判官」がせいぜい 7~8 年の懲役で、ひどいものになると「執行猶予」までつけてくれる。そうになると、世間が許さないだろう。

警察官も、できれば結愛ちゃんと同じくらいの年齢の子供か孫をもち、心優しい人が望ましい。初めから、児童相談所ではなく、警察に告発すればよかった。

そして、民間から未然に防ごうという動きがでてきて、普段は積極的に動かない厚生省も動き出した。・・・安倍総理に対する付度もあるだろう。

繰り返す。結愛ちゃんの無念さは、けっして無駄にはならなかった。然るべき人が動き、然るべき人が仕事をすれば、埋もれてしまうことがなくなるだろう。

そういう意味では、結愛ちゃんは、身をもって命を賭けて訴えたのである。

写真を見てもかわいい子だ。きっと性格も優しく、普通の人間には、可愛がられたらろう。……でももう遅い。

だが、結愛ちゃんの虐待・虐殺の事実は、1か月たってもほとぼりはさめない。

生涯忘れることのできない衝撃を与えてくれた、結愛ちゃんの遺志は、語りつづけられるであろう。小生も書き続けるつもりである。

2018.06.28.

いつも怒りながら書いているのだが、今回は、書いている途中でも涙が溢れてきて困った。結愛ちゃんの霊がやすらかでありますように。 両親については、**オレが許す、拷問せえ！** そして、「もう許してください」を言わせろ！

この問題は長引きそうで、何日かすればまた新たな情報が開示される可能性が高い。20もある結愛ちゃんの「仕事」のほとんどが表面にでていない。裁判に関することだからか。

この文面でホームページに掲載する予定であった。ところが、門田隆将氏が、「結愛ちゃんの死と小池都知事の責任」を月刊 HANADA8月号に掲載した。どうもオレと感性が似ているらしい。

経緯はすでに述べているが、児童相談所員が警察を呼ばなかったために、結愛ちゃんの最後の生きる機会が失われたことは間違いない。

3月に結愛ちゃんの死が明らかになったとき、東京都議（上田玲子氏）が議会で質問に立っていて、知事も与党も相手にせず、「継続審査」にしてしまった。上田氏の主張は、児童相談所と警察との虐待情報の全件共有について質問をしたのだが、福祉保健局、教育委員会ともに「必要なし」と答弁した。警察消防委員会では、与党などの反対によって「否決」された。東京では、一人の小児の生死など、あくまで他人事なのだ。彼らは、責任をとる覚悟があるのか？

だが、世間の目が厳しくなってきた6月13日小池は、「情報共有をスムーズにさせるために全国統一のルールを国でつくってもらうことができないか、厚生労働大臣に緊急要望する」と述べた。笑い話ではない。すでに他県では、すでにできあがっているのである。そして、自らの怠慢を知事や与党は、他人事にするつもりなのである。都政全般にわたって、虐待に対し、なんら危機感をもっていない、ということがわかっただけのことである。